

4 つくばね学の評価について

《つくばね学の評価の観点の趣旨》

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
つくばね学について、関心をもち、つくばね学の諸活動への適切な対応を目指して主体的に取り組もうとするとともに、地域社会の一員としての望ましい心構えや実践的な態度を身に付けている。	つくばね学の諸活動への適切な対応を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、つくばね学の諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	つくばね学に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、つくばね学の諸活動への適切な対応を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	つくばね学に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、地域社会の一員としての望ましい心構えについて理解している。

【小学校での学習支援】

学びの楽しさと大切さを再確認



【筑波大学かまどプロジェクト】

レンガを使って災害時の炊き出しかまど作成



【稲葉酒造場での地酒作り】

筑波山の湧き水を使った伝統的な日本酒づくり



【特養老人ホーム筑波園】

介護の現場で高齢者福祉について考える

●目標・ねらいをふまえ、身につけたい5つの能力

1 人間関係形成能力

- ① 自分自身に対する理解を深め、他者の個性を尊重する。
- ② 地域社会に対する関心を深め、正しい行動規範や公共心を確立する。
- ③ 豊かな人間性を育み、社会に生きる自己の存在を認識する。
- ④ 基本的生活習慣を身につけ、自分自身を主体的に成長させる。

2 コミュニケーション能力

- ① 異世代・異学年と関わりながら、積極的に社会的活動に参加する。
- ② 相手の立場や考えをよく理解し、円滑な人間関係を築く努力をする。
- ③ さまざまな状況に応じて、自分の意見や考えを表現し、的確に伝える。

3 情報活用能力

- ① 必要な情報を的確に収集・分析して、その情報をまとめて活用する。
- ② 集めた情報から社会のしくみを学び、自分の生き方と進路を考える。
- ③ 体験的学習をとおして、失敗や反省から対処法やとるべき行動を考える。
- ④ 情報の収集・分析から、社会や職業生活と自分の進路の関連を理解する。

4 意志決定・将来設計能力

- ① 勤労に意義や責任を感じることで、正しい職業観・勤労観を確立する。
- ② 多様な選択肢の中から、自己の進路をよく考え主体的に選択する。
- ③ 自分自身の長所・短所をよく把握し、自己実現を図り「生きる力」を養う。
- ④ 様々な活動や人間関係の中で、より良い社会人になるための努力をする。
- ⑤ 現在取り組むべき課題を認識する。
- ⑥ 課題を解決するために積極的に取り組み、進路実現を目指す。
- ⑦ 将来にわたって自分自身の生き方・在り方を考え、「生きる力」を身につける。

5 持続可能な発展に関する能力

- ① 郷土を愛する心や自然を大切にする心を育み、伝統文化に対する理解を深める。
- ② 郷土の地理的・歴史的特性を学び、経済産業的な状況を理解する。
- ③ さまざまな社会的諸問題を解決するために思考する。
- ④ 持続可能な社会を実現するために、主体的に考えを深めることができる。
- ⑤ 単なる地域貢献活動にとどまらず、持続可能な社会の一員としての自覚を持つ。

※国立教育政策研究所「職業観・勤労観を育む教育の推進について」を参考に作成

※太線で囲まれた部分については、各実習施設においても評価してもらう。

文部科学省「E S Dの目標，基本的な考え方，育みたい力，学び方・教え方」

※ ESD：Education for Sustainable Development（持続発展教育）

文部科学省では，E S Dを普及するために「持続発展教育」という言葉を用いて，E S Dの目標，基本的な考え方，育みたい力，学び方・教え方について以下のように述べている。

目標

- 持続可能な発展のために求められる原則，価値観及び行動が，あらゆる教育や学びの場に取り込まれること。
- すべての人が質の高い教育の恩恵を享受すること。
- 環境，経済，社会の面において持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすこと。

基本的な考え方

- E S Dは，持続可能な社会づくりのための担い手づくりです。
E S Dの実施には，特に次の2つの観点が必要です。
 - ・人格の発達や，自律心，判断力，責任感などの人間性を育むこと。
 - ・他人との関係性，社会との関係性，自然環境との関係性を認識し，「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育むこと。
- 環境教育，国際理解教育，基礎教育，人権教育等の持続可能な発展に関わる諸問題に対応する 個別分野の取組のみではなく，様々な分野を多様な方法を用いて つなげ，総合的に取り組むことが重要です。

育みたい力

- 体系的な思考力（問題や現象の背景の理解，多面的・総合的なものの見方）
- 持続可能な発展に関する価値観（人間の尊重，多様性の尊重，非排他性，機会均等，環境の尊重等）
- 代替案の思考力（批判力）
- 情報収集・分析力
- コミュニケーション能力

学び方・教え方

- 「関心の喚起→理解の深化→参加する態度や問題解決能力の育成」を通じて「具体的な行動」を促すという一連の流れの中に位置付けること。
- 単に知識・技術の習得や活用にとどまらず，体験，体感を重視して，探求や実践を重視する参加型アプローチとすること。
- 活動の場で学習者の自発的な行動を上手に引き出すこと。

※国立教育政策研究所「職業観・勤労観を育む教育の推進について」・文部科学省「E S Dの目標，基本的な考え方，育みたい力，学び方・教え方」をもとに，「つくばね学」評価規準を作成。